小学校

平成8年度

教育研究員研究報告書

道　徳

東京都教育委員会

平成８年度

教育研究員名簿

第１分科会

地区名	学校名	氏名
文京	駕籠町小	五十子晴美
台東	田原小	○森田博之
江東	水神小	大木毅
世田谷	桜町小	◇喜田康子

地区名	学校名	氏名
渋谷	中幡小	入江千秋
杉並	永福南小	早川恵介
足立	六木小	佐々優子
八王子	第六小	竹内智明

第２分科会

地区名	学校名	氏名
目黒	不動小	星直樹
板橋	大山小	早川直美
練馬	光和小	福田純子
江戸川	第七葛西小	勝沼康夫

地区名	学校名	氏名
立川	上砂川小	江本裕子
日野	日野第八小	○海老原眞知子
狛江	狛江第二小	◇岩上千登世
東久留米	第四小	福島康昭

第３分科会

地区名	学校名	氏名
品川	八潮小	◇大久保忠行
大田	入新井第五小	○山田誠
荒川	峡田小	牧真由美
足立	東加平小	石戸託也

地区名	学校名	氏名
葛飾	南綾瀬小	十文字充代
八王子	大和田小	菊地敬子
調布	第三小	◎木村恵子

第４分科会

地区名	学校名	氏名
港	麻布小	◇赤津俊也
墨田	小梅小	○松本清史
世田谷	松沢小	関村明子
昭島	拝島第二小	中嶋博子

地区名	学校名	氏名
町田	大戸小	井上文子
福生	福生第一小	伊藤ますみ
武蔵村山	第六小	中里慎太郎
八丈	大賀郷小	木村浩昌

◎全体世話人　○分科会世話人　◇分科会副世話人

担当　教育庁指導部初等教育指導課指導主事　清水道弘

研究主題　よりよく生きる力を育てる道徳授業

目　　次

◇　研究主題について …… 2
◇　研究の概要 …… 3

Ⅰ　自己を見つめる心を育てる指導の工夫（第１分科会） …… 4
　1　分科会テーマ設定の理由
　2　児童の実態調査
　3　自己を見つめる心を育てる指導の工夫
　4　実践事例
Ⅱ　互いに認め合う心を育てる指導の工夫（第２分科会） …… 9
　1　分科会テーマ設定の理由
　2　児童の実態調査
　3　互いに認め合う心を育てる指導の工夫
　4　実践事例
Ⅲ　生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫（第３分科会） …… 14
　1　分科会テーマ設定の理由
　2　児童の実態調査
　3　生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫
　4　実践事例
Ⅳ　自ら家族にかかわろうとする心を育てる指導の工夫（第４分科会） …… 19
　1　分科会テーマ設定の理由
　2　児童の実態調査
　3　自ら家族にかかわろうとする心を育てる指導の工夫
　4　実践事例

◇　研究の成果と今後の課題 …… 24

〈概　　要〉

本部会では，研究主題解明に当たり，学習指導要領に示された内容の四つの柱に基づいて分科会を構成し，授業研究を通して実証的に授業改善に取り組んだ。

研究の方向を，児童のよさや可能性を見いだし，それを認め，伸ばすことによって児童が本来的にもっているよりよく生きようとする力の育成を図ってきた。

その結果，児童自らがよさに気付き，それを生かすことができるようにするためには，児童の自己表現活動と学習支援を中心とする指導の工夫が必要であることが分かった。

研　究　主　題

よりよく生きる力を育てる道徳授業

◇　研究主題について

今日，経済や先端科学技術の分野において世界をリードするまでに発展した我が国では，国民の生活も豊かで便利になってきている。しかし，このような豊かさの影で，家庭や地域社会の教育力の低下や競争意識を過度にあおる，追いつき追い超せ型の教育などの弊害が進んでおり，それに伴っていじめ・不登校をはじめとする多くの問題が深刻化してきている。今，改めて，生命尊重，自他の敬愛，自己抑制，家族愛等の人間の精神の育成にかかわる心の教育を真剣に問い直さなければならない時期にきている。これからの時代を担う児童が主体性をもってよりよく生きていくためには，内面に根ざした道徳性をはぐくみ，日常生活における具体的な実践に結び付く豊かな心を育成することが重要である。まさに道徳教育は，人間としての在り方や生き方を根本から問いかけるものであり，学校教育の中心に位置付くものである。

また，道徳の時間は，各教育活動において行われる道徳教育を全体にわたって調和的に補充，深化，統合する時間であるとともに，心の通い合いや心の動きを豊かにする学習を踏まえ，道徳的価値の学習を計画的，発展的に深めていく時間である。このように道徳の時間は，道徳教育の要であり，道徳の時間の指導の充実は極めて大切である。

そこで，研究主題「よりよく生きる力を育てる道徳授業」に迫るため，本年度も道徳の指導内容の４つの視点から，それぞれの目指す児童像を掲げ，分科会ごとのテーマにそって研究を進めた。第１分科会では，自分を見つめ，よさを伸ばしていこうとする児童を目指して「自己を見つめる心を育てる指導の工夫」，第２分科会では，互いによさを見つけ，認め合い，高め合おうとする児童を目指して「互いに認め合う心を育てる指導の工夫」，第３分科会では，生きている喜びを実感し，意欲的に生きようとする児童を目指して「生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫」，第４分科会では，家族のよさに気付き，敬愛の念をもち，進んでかかわろうとする児童を目指して，「自ら家族にかかわろうとする心を育てる指導の工夫」をテーマとした。

これらのテーマを追究するに当たり，授業研究を通して，一人一人の児童が自己の課題意識をもって意欲的に学習に取り組み，自ら考え，主体的に判断し，表現できるような道徳の授業の在り方を探っていきたいと考えた。

◇　研究の概要

豊かな心をもち，たくましく生きる児童の育成

研究主題
よりよく生きる力を育てる道徳授業

第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会
〈目指す児童像〉 自分を見つめ，よさを伸ばしていこうとする児童	〈目指す児童像〉 互いによさを見つけ，認め合い，高め合おうとする児童	〈目指す児童像〉 生きている喜びを実感し，意欲的に生きようとする児童	〈目指す児童像〉 家族のよさに気付き，敬愛の念をもち，進んでかかわろうとする児童
〈分科会主題〉 自己を見つめる心を育てる指導の工夫	〈分科会主題〉 互いに認め合う心を育てる指導の工夫	〈分科会主題〉 生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫	〈分科会主題〉 自ら家族にかかわろうとする心を育てる指導の工夫
〈仮　説〉 自己を見つめる心を育てる指導を充実すれば，自分のよさや課題に気付き，自信や意欲が生まれ，よりよく生きようとする児童を育てることができる。	〈仮　説〉 自分の思いや考えをもって他の人を受け入れ，互いのよさを素直に表現し合える心と態度を育てる指導を工夫すれば，互いのよさを見つけ，認め合い高め合おうとする児童を育てることができる。	〈仮　説〉 自然や自他の生命を大切にし，美しいものに感動する心を育てる指導を充実すれば，生きている喜びを実感し，意欲的に生きようとする児童を育てることができる。	〈仮　説〉 家族を見つめ直し，家族を大切にしようとする心を育てる指導を工夫すれば，自ら家族にかかわろうとする児童を育てることができる。
〈指導の工夫〉 ・自己を見つめる活動の学習過程への位置付け ①他者とかかわる ②資料に共感する ③自分を振り返る ・自己を見つめるための他者とかかわる場面の工夫	〈指導の工夫〉 ・互いに認め合う心を育てる視点の学習過程への位置付け ①自分自身の思いや考えをもつ ②友達の思いや考えを受け入れる ③他との交流を通して，自分の思いや考えを広げ，深める	〈指導の工夫〉 ・感動を呼び起こす資料の選択と提示 ・児童の心に深く問いかける発問の工夫 ・道徳の時間を要として，他の教育活動との関連を図る工夫 ・一人一人の気付きや思いを生かした個に応じた指導	〈指導の工夫〉 ・児童が共感でき，家族のよさを想い起こせる資料の選択 ・家族をより深く見つめ直すためのワークシートの活用 ・これからの自分を考えることができる発問 ・事前，事後の指導

検　証　授　業

総合的評価（指導計画，指導方法，児童の変容）

Ⅰ　自己を見つめる心を育てる指導の工夫（第１分科会）

１　分科会テーマ設定の理由

第１分科会では，研究主題に迫るために，よりよく生きようとする自分自身に焦点を当て，児童一人一人が自分を深く理解し，自分を高めていこうとすることが大切であると考えた。そのためには，自分に働きかける主体である自己を見つめる心を育てることが課題となる。そこで，「自分を見つめ，よさを伸ばしていこうとする児童」を目指し，分科会テーマを「自己を見つめる心を育てる指導の工夫」と設定した。

◎「自己を見つめる」とは

〈自己とは〉　　自分に働きかける主体

〈自己を見つめるとは〉　授業の中で高められた価値に照らして今までの自分を自ら見つめ，自分のよさや課題に気付くこと

◎「よさ」とは

道徳教育における「よさ」とは，よりよく生きようとする姿そのものといわれている。児童の考える自分のよさについて意識調査を行い，道徳の内容項目に分類したところ，児童のあげた自分のよさが，すべて内容項目にわたってとらえられていた。このことから，道徳性そのものを「よさ」ととらえることができる。道徳性とは一人一人のよさといわれているのもそのゆえんである。

本分科会では，児童が自分のよさを発揮しながら，よりよい自分の生き方を求めていってほしいという願いをもっている。そこで，一人一人がもっている自分のよさを伸ばすとともに，不十分なところを自分の課題としてとらえ，自分なりによりよくしていこうという気持ちをもつことも大切なよさの一つであると考えた。

◎自己を見つめる心を育てる指導の工夫

道徳授業の中では，自己を見つめるための児童の活動は，次の三つがある。

Ａ他者とかかわる　　Ｂ資料に共感する　　Ｃ自分を振り返る

これら三つの活動が関連し合って自己を見つめていくことになる。その中でも「他者とかかわる」という活動を重視して指導に当たることにした。なぜなら，児童の意識調査によって，児童が自らのよさに気付いたり伸ばそうとしたりするには，他者とのかかわりが非常に大きいことが明らかになったからである。そのために，授業の中で他者とかかわる状況や場面を設定することによって，児童がより深く自己を見つめられるようにしたい。

また，授業の中で，自己を見つめるための手だて・支援を指導案に具体的に位置付け，児童が自らより深く自己を見つめることができるように工夫した。

さらに，授業を効果的に行うには，道徳の時間以外の指導の工夫として次のことにも配慮することにした。

○事前・事後指導　○日常の取組み　○他教科との関連　○家庭との連携

2　児童の実態調査

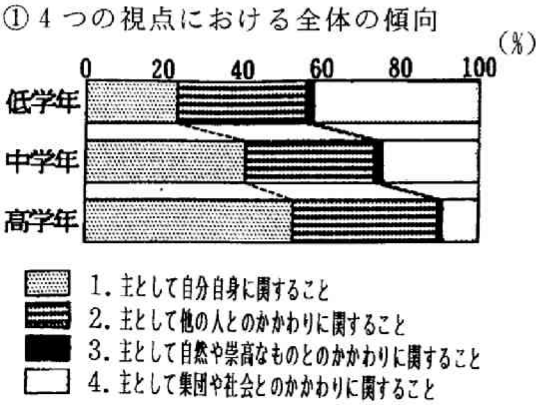
(1)　目　的　　児童が自分のよさをどのように把握しているか，また，よさを伸ばそうとしているか，その傾向を把握し今後の指導に役立てる。

(2)　方　法　　一部，自由記述を含む選択肢による質問紙法を用いた。調査対象は，都内８小学校の児童　合計 1,491名（低学年 476名・中学年 460名・高学年 555名）

(3)　結果と考察

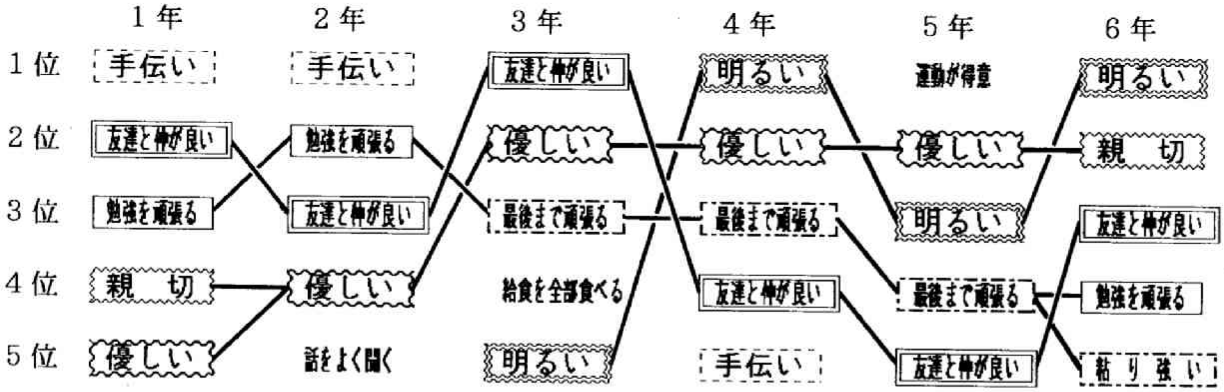
設問１　自分のよいところは，どんなところだと思いますか，思ったことを自由に書いてください。

①４つの視点における全体の傾向



児童から出されたよさを四つの内容項目の視点に分けて考えた。（例・忘れ物をしない→１の視点）四つの視点別全体傾向の割合から見ると，１の視点については，高学年になるにしたがって増えており特に高学年に関しては，全体の50％を占める。逆に４の視点については，高学年になるに従って減っていることが分かる。また，２と３の視点については全学年とも同じ割合であるが，特に３の視点は他と比べて極端に少ないことが分かる。

②学年別「よさ」の関連について

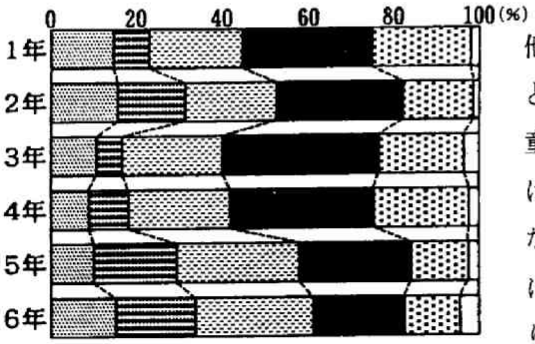


１，２年では「手伝い」が断然多く家族との結び付きの強さが感じられる。また，図工の色塗りが上手，鉄棒ができるようになったなど，なにかが人よりできることや，自分ができるようになったことを「よさ」ととらえている児童が多い。３，４年では「友達と仲が良い」や「友達に優しい」など友達とのかかわりを重視し，「最後まで頑張る」「やりとおす」など，３年生から出ている。この時期から，自分の力を出しきって物事に取り組むことに価値を見いだす児童が増えてくる。中学年になると，自分の性格の「よさ」をとらえている児童が多い。５，６年になると，自分の「よさ」を他の人と比べて自覚している児童が多くなる。

また，自分がどんな人間かと考えたときに，自分を肯定的に評価する傾向が強いのは低学年で，高学年になるほど自分を厳しく評価するようになっていることが分かる。これは，低学年は，ほめられることが多く，高学年になるほど，道徳的価値が高くなるからであると思われる。

設問２　自分にはよいところがあると、気がつくときはいつですか。ア～カであてはまるものに○をつけてください。

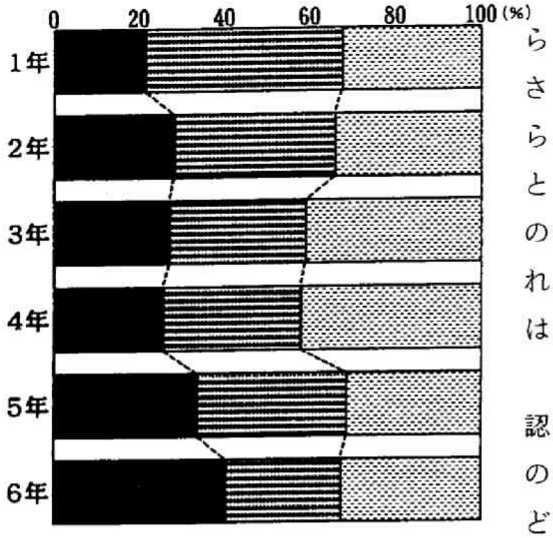
- ア　自分がどんな子なのか考えたとき
- イ　自分を人とくらべて考えたとき
- ウ　友達からよいところを言われたとき
- エ　お父さんやお母さんによいところを言われたとき
- オ　先生によいところを言われたとき
- カ　その他の人から言われたとき



「自分によいところがある」と気付くのは，他者から指摘されるときに多いことが分かる。とりわけ，親からの働きかけは，どの学年の児童にとっても大きな影響を与えている。低学年は，教師の働きかけが大きく影響し，また自分なりに考え自覚していることが分かる。中学年になると人とのかかわりに目を向けるようになり，高学年では友達とのかかわりが大きいことが分かった。

設問３　自分をもっとよくしよう、がんばろうと思うのは、どんなときですか。ア～ウであてはまるものに○をつけてください。

- ア　しかられたとき
- イ　ほめられたとき
- ウ　本を読んだり、テレビや他の人の行いを見たりして感動したとき



自分をもっとよくしようと頑張るのは，ほめられたときはもちろんのこと，叱られたり注意されたりすることが予想以上に多かった。どちらも，より向上しようとする意欲につながることが分かった。ほめられるということは，自分の「よさ」に気付くということと自分を認められることである。また，注意されるということは自分の「課題」に気付くということである。

自分の「よさ」や「課題」に気付き，また，認められることから，自信や意欲が生まれるものと考える。さらに，低学年でも本やテレビなどに感動共感することで自分を振り返ることができるということが分かった。

(4)　まとめ

以上のことから，自分のよさに気付いたり伸ばしたりするには，他者とのかかわりが，大きいことが分かった。また，自分を振り返ることや，より感動できる資料の選択も大切である。これらのことを踏まえ，指導の工夫をしていくことが大切であると考える。

3　自己を見つめる心を育てる指導の工夫

他者とかかわる活動

教師

・温かい励まし、支援、評価
・聞く、話す活動の積み重ね
・多様な学習過程の設定
・意図的指名
・アンケート調査結果の提示
・発問の精選
・価値に迫る中心発問、効果的な補助発問や切り返し
・役割演技、動作化の活用
・書く活動（ワークシート）の工夫
・メッセージカード、よさ発見カードの作成
・余韻を残す説話
・登場人物の心の動きのわかる板書

友達

・励まし合い、認め合い、共感
・相互指名
・話し合い活動（グループ討論やフリートーキング）
・ワークシートの読み合い
・友達への手紙、友達からの手紙

家族

・家族への手紙、メッセージ
・家族からの手紙、メッセージ

資料に共感する活動

・ねらいとする価値に迫る資料の選択
・多様な資料提示の工夫
　（例）読み物資料、ＶＴＲ、紙芝居、ペープサート、パネルシアター
・初発の感想、心に残った場面をもとにした発問構成
・登場人物の気持ちを読みとる心情図の活用

自分を振り返る活動

・よさや課題が発見できる展開後段
・資料から展開後段へのスムーズな橋渡し
・自分を振り返ることができるような導入の工夫

自己を見つめることができるように

4　実践事例（2学年）

(1)　主題名　正直な心（1－④　正直・誠実）　資料名　「おなかがいたい」（自作資料）

(2)　ねらい　うそやごまかしをしないで，素直に伸び伸び生活しようとする心情を育てる。

(3)　指導の実際　（A　他者とかかわる　B　資料に共感する　C　自分を振り返る）

	学習活動（主な発問と児童の反応）	自己を見つめるための手だて・支援
導入	1.事前アンケートの結果を知る。 ①アンケートの結果を見てどう思いますか。	A.C 友達の事例や考えを自分と比べ関心をもてるようにする。
展開	2.資料を読んで話し合う。 ①「おなかがいたいの」と言った時とも子はどんな気持ちだったでしょう。 ・あ～うそついちゃった。どうしよう。 ・みんなが心配してくれているのに。 ◎②食器を片付けている時，とも子は心の中でなんと言っていたでしょう。 ・悪いことしちゃったな。 ・うれしい気持ちといやな気持ち半分ずつ。	A 友達の発言をよく聞いた上で多様な発言ができるように，話し合いのルールを工夫する。 B とも子になりきっていえるよう，とも子の絵を首にかけて役割演技をする。 ・後味の悪さに気付くことができるようにする。
	3.今までの自分について振り返る。 ①とも子さんのように，うそやごまかしを言って，後ですっきりしなかったことがありますか。（目をとじて考えましょう。） ②正直に話してよかったと思ったことはありますか。 ・友達にもらったのに拾ったとうそを言ったが，翌日正直に言ってすっきりした。 ・お菓子を食べ過ぎ夕食が食べられなかったわけを，翌日話してすっきりした。	C 自分を振り返りやすいよう，発問を2段階にする。（①では発言を求めない） ・友達の経験を聞いて，自分を再度振り返ったり，友達のよさを知るようにする。
終末	4.正直に話してよかった話を聞く。 （「はるみちゃんシリーズ」　教師の体験談）	・説話を印象深くするため，紙芝居にして話す。

(4)　考察

○ねらいとする価値を意識できるよう発問や板書を工夫したことで，自己を見つめることができていた。

○友達の考えをよく聞いたり，自分を振り返ったりして考えを言うことができていた。

Ⅱ　互いに認め合う心を育てる指導の工夫（第２分科会）

１　分科会テーマ設定の理由

今日では，学校生活においても友達との人間関係が希薄になり，表面的なものになっていると考えられる。児童は，友達との人間関係の直接的な触れ合いを通して，人とのかかわり方を学びながら成長する。この人間関係を支えるものは，信頼であり，相互理解である。自らの心を開き，相手を素直に受け入れ，そのよさを見付けようとすることから，心の結び付きが始まる。やがて，相手も心を開き，自分のよさを認めてくれる。この心の交流が互いに認め合おう，高め合おう，とする人間関係に発展する。このような肯定的な関係と人との強い結び付きが，数々の困難に負けることなく，人生をたくましく生き抜こうとする意欲と強さを育て，「よりよく生きる力」を培うことになると考えた。

そこで，第２分科会は研究テーマを「互いに認め合う心を育てる指導の工夫」と設定した。道徳の時間においては，児童が　①自分自身の思いや考えをもつ　②友達の思いや考えを受け入れる　③他との交流を通して，自分の思いや考えを広げ，深める　という三つの視点から指導を工夫し，「互いのよさを見付け，認め合い，高め合おうとする児童」の育成を目指した実践研究を進めることにした。

２　児童の実態調査

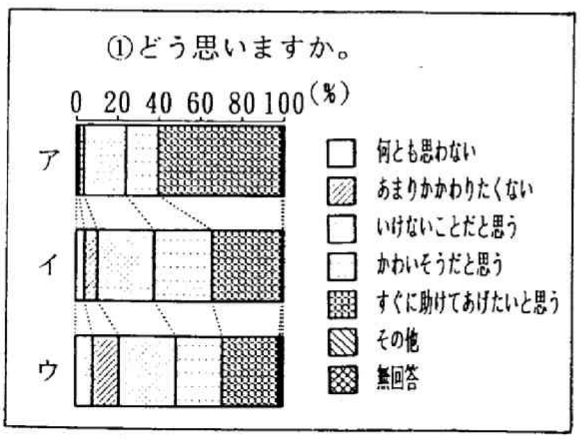
(1)　目　的　①他の人とのかかかわりについて，具体的な場面における心情や行動に関すること（設問１・２）②友達のよさをどのように把握しているか（設問３）を知ることにより，分科会テーマの解明及び指導の工夫に役立てる。

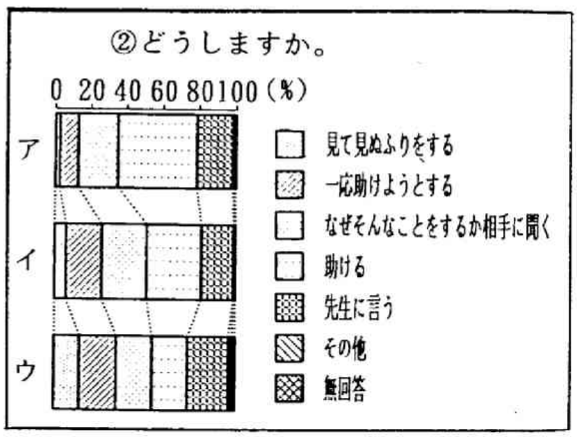
(2)　方　法　選択肢法及び記述式を用い，全学年統一内容にした。調査対象は，都内８小学校の児童　合計９８３名（低学年３３２名・中学年３４７名・高学年３０４名）

(3)　内　容　設問１・２では，下記のような場面を設定し，さらに，友達との親密度（ア．よく一緒に遊ぶ○○さん　イ．あまり話したことのない○○さん　ウ．あまり仲のよくない○○さん）を想定させ，各々について調査した。設問３では，「友達のいいところ」について記述させた。

(4)　結果と考察

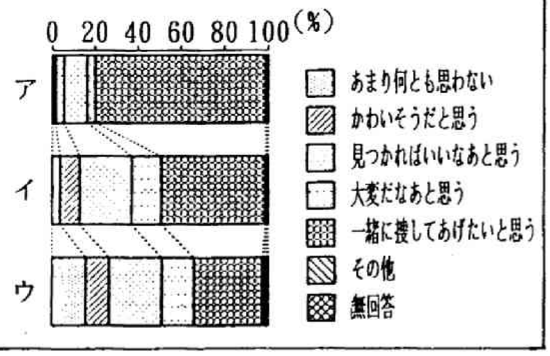
設問１　○○さんが悪口を言われたり，いじめられたりしています。



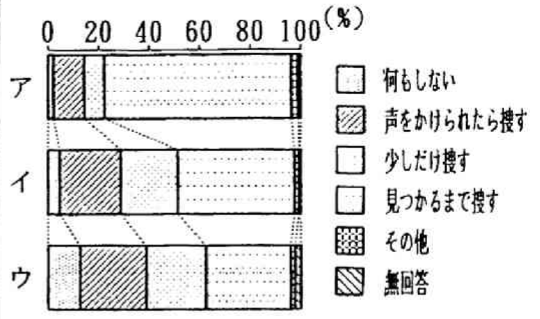


設問２　休み時間のはじめに，○○さんがなくした家のかぎをさがしています。

①どう思いますか。



②どうしますか。



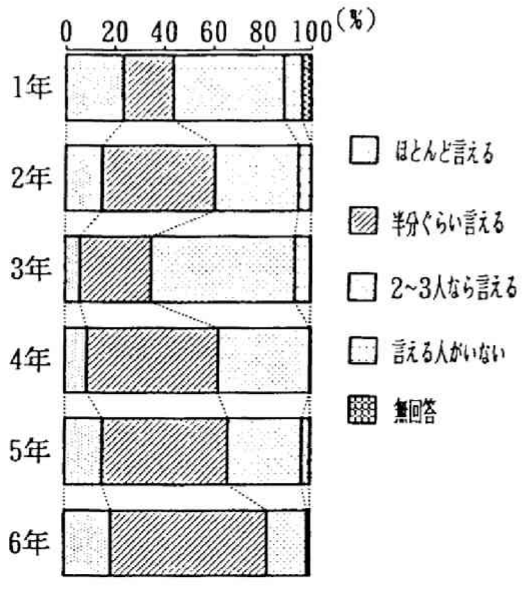
設問１・２から

・相手とのかかわりの深さによらず，「かわいそうだ」「いけないことだ」と答えることが多く，善悪の判断はある程度身に付いている。

・相手が親しみのある仲の良い場合は，「助ける」「理由を聞く」などのように，実際に助けると答えるものが多いが，相手とのかかわりが薄く仲の良くない場合は，「見て見ぬふりをする」など無視したり，その場だけをとりつくろうとする答えが多い。また，「先生に言う」という間接的な行動や「声をかけられたらさがす」という受け身的な行動も多い。このように，道徳的な実践については，相手との親密度によって主観的に判断される場合が多い。

設問３　学級の友達のいいところが言えますか。どんなところですか。

友達のいいところが言えますか。



友達のよさ　《◇心情面・◆利害・☆表面的・◎社会性》

１　年	２　年	３　年
◇ 優しい ◆ 遊んでくれる ☆ おもしろい ◆ ～してもらった ◇ 親切 ◇ 明るい ◆ 誘ってくれる ◆ 教えてくれる ☆ ～がうまい・上手 ☆ かわいい	◆ ～してもらった ◇ 優しい ◆ 遊んでくれる ☆ おもしろい ☆ ～がうまい・上手 ☆ 頑張り屋 ☆ 仕事を頑張ってくれる ◆ 教えてくれる ☆ にこにこ笑顔 ◆ 誘ってくれる	◇ 優しい ☆ おもしろい ☆ 頭がいい ◇ 明るい ◆ 遊んでくれる ◆ 助けてくれる ◆ 教えてくれる ☆ 字・絵が上手 ☆ スポーツができる ◆ 物を貸してくれる
４　年	**５　年**	**６　年**
☆ おもしろい ◇ 優しい ◇ 明るい ☆ スポーツができる ☆ 楽しい ☆ 頭がいい ◆ 教えてくれる ☆ 字・絵がうまい ☆ 元気 ◆ 助けてくれる	◇ 優しい ☆ おもしろい ◇ 明るい ◇ 相談にのってくれる ◎ 協力してくれる ◆ 教えてくれる ☆ ～が上手 ◎ 誰とでも仲良し ☆ にこにこ ◆ 物を貸してくれる	◇ 優しい ☆ おもしろい ◆ 教えてくれる ☆ ～がうまい ◇ 明るい ◆ 遊んでくれる ◆ 嫌がることをしない ◇ しっかりしている ☆ はきはきしている ☆ よく話す

設問3から

・児童は友達のよさを発達段階に応じて多様に把握しており，低学年は，自分との直接的なかかわりにおいてとらえる傾向がある。高学年になると，少数ではあるが「注意してくれる」「励ましてくれる」など，友達同士のつながりの深さをうかがわせるものが出てくる。

・友達のよさの内容を見ると，「やさしい」「おもしろい」「○○してくれる」など，自分とのかかわりにおいて快いものが多く挙げられている。このことから，日常生活において友達を表面的にとらえ接する傾向が見られる。相手に好かれ快い存在になるために深くかかわろうとせず，上手に付き合おうとしているようである。

・一方，「勉強ができる」「スポーツが得意」など，個人的な資質に多くの児童が目を向けている。このような友達の資質のよさを認める態度を更に養い，人とのかかわりをより広げ，深めていく指導の工夫を重ねていきたい。

3　互いに認め合う心を育てる指導の工夫

道徳の授業において互いに認め合う心を育てるためには，授業を次の三つの視点でとらえ，指導の工夫をする必要があると考えた。

①自分自身の思いや考えをもつ

②友達の思いや考えを受け入れる

③他との交流を通して，自分の思いや考えを広げ，深める

これらの三つの視点は，それぞれが独立したものではなく，繰り返したり，相互に関連し合って育てられるものと考えられる。中でも，本分科会の主題との関連においては，特に，「②友達の思いや考えを受け入れる」ことが重要であると考えた。

①自分自身の思いや考えをもたせる工夫	②友達の思いや考えを受け入れさせる工夫	③他との交流を通して，自分の思いや考えを広げ，深めさせる工夫
・資料の選択と吟味 ・学習課題づくり ・時間の確保 ・発問の吟味 ・場面絵の工夫 ・板書の工夫 ・ワークシートの活用 ・サインボード	・サインボード ・発問の吟味 ・相互指名 ・話し合い活動の工夫（グループ，バズ） ・役割演技 ・座席の配置 ・資料の選択と吟味	・ワークシートの活用 ・意図的指名 ・話し合い活動の工夫（グループ，バズ） ・時間の確保 ・サインボード ・資料の選択と吟味 ・ハンドサイン

これらの工夫は，すべてが一つの授業でなされるわけではなく，児童の実態や授業の流れによって選択され，それぞれの目的に合わせて効果的に使われることが望ましい。

4　実践事例（第３学年）

(1)　主題名　友達を大切に（中２－(3)信頼・友情）

資料名　「ひとりぼっちのＹちゃん」（一部改作）

(2)　ねらい　友達に進んでかかわり，よりよい友達関係を築こうとする意欲と態度を養う。

(3)　授業改善の視点と本時の指導の工夫

①　自分自身の思いや考えをもたせるための工夫

導入を工夫し，ねらいとする価値への方向付けをする。また，資料を一部改作して葛藤場面を加えることで，資料により共感し，自分の思いを膨らませ，考えられるようにする。

②　友達の思いや考えを受け入れさせるための工夫

中心発問を吟味することにより，児童から多様な意見を引き出す。また，サインボードを使い，赤・青・黄色で自分の考えを表すことにより，友達の意見との類似や違いに気付き，話し合いが充実することができるようにする。

③　他との交流を通して，自分の思いや考えを広げ，深めさせるための工夫

話し合いの後，ワークシートを使い，自分の考えをまとめさせる。その際，サインボードの色を記入し，導入時の色と比べて，自分の変容を振り返ることができるようにする。

(4)　展　開　　☆支援　◇評価

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	１友達のことで悩む児童の声を聞く。（録音）	○友達のことで悩みのある子供の話を聞いてください。どんなことを感じましたか。 ・自分から話しかければいいのに（黄色） ・何も悪くないのにかわいそう（青色） ・そばにいたら，友達になってあげるのに（赤色）　＊色表示は一例 ・なぜまわりの子は無視するのだろう	☆価値への方向付けをする。 ☆自分の考えをサインボードで表示できるようにする。（赤・青・黄） ◇自分の考えをもつことができたか。
展開前段	２資料「ひとりぼっちのＹちゃん」を読み，話し合う。	○どんな気持ちから，Ｙちゃんにいじわるをし始めたのですか。 ・楽しい子じゃないから ・何を言っても逆らわないから ○Ｙちゃんが泣き出したとき，どんな気持ちだったのですか。 ・助けると自分がいじめられる ・こんなにひどくなるとは思わなかった ・自分が始めたので，いまさらやめられない ・かわいそう，あやまろうかな ◎Ｙちゃんを残して帰ってしまった後，わたしはどんなことを考えましたか。	☆ささいなことからいじわるを始めた主人公の気持ちを考えさせる。 ☆悪いと思いながらもやめる勇気が出せない心の葛藤に気付かせる。 ◇ゆれるわたしの気持ちに気付くか。 ☆ワークシートに考えをまとめられるようにする。

		・みんなもいじめているからわたしだけが悪いのではない（黄色） ・かわいそうだけど，みんなに嫌われるから助けられない（青色） ・みんなを気にせず，一緒にさがせばよかった（赤色）　＊色表示は一例 ・まだ，さがしているのかな ・後で，あやまろう	☆サインボードを使って自分の意思表示をした上で話し合いをさせ，考えの相違に気付かせる。 ◇友達の意見を進んで聞き，自分の考えをもつことができたか。
後段	3 自分の生活を振り返る。	○友達から声をかけられてうれしかったときはどんなときですか。そのときの気持ちはどうでしたか。 ・一人でいるとき「遊ぼう」と言ってくれた ・忘れ物をしたとき，やさしく貸してくれた ・さがしものをしているとき，一緒にさがしてくれた ・けんかをしたとき，先に声をかけてくれた	☆友達のうれしかった気持ちを共感しながら聞き，進んで友達にかかわる大切さに気付かせる。 ◇自分を振り返ることができたか。
終末	4 教師の説話を聞く。	○（友達に進んで声をかけ，喜んでもらったという内容）	☆よりよい友達関係を築くことへの意欲付けをする。

(5)　考察

①　悩みのある児童の声の録音を聞かせたことで，友達について考えようという気持ちを高めることができた。また，より身近な題材を扱った資料を用い，一部改作することにより，登場人物に共感しながら自分の考えをもち，素直に表現することができた。しかし，資料の内容が切実なために，話し合いを進めるにつれて，「Ｙちゃんを助けよう」という実践的意欲がやや後退する児童もいた。発問を主人公だけでなく，違う人物の立場からも問うなど，ねらいとする価値により迫る指導の工夫が必要である。

②　サインボードを使うことにより，自分の考えを整理し，意思表示をすることができた。また，自分と友達の考えを比べ，「同じ意見の人は」「違う意見の人は」など相互指名に生かすこともできた。しかし，友達の意見は聞くが，それに対して「反対」「質問」などは少なく，話し合いが十分深まらなかった。友達との意見の違いを知るだけでなく，なぜ違うのか確かめていく態度を養っていきたい。そのためには，児童の細かな反応やつぶやきを見逃さず，拾い上げ，共有の問題へとつなげていく役割を教師が果たさなければならない。

③　ワークシートを活用することにより，児童が自分の考えをまとめることができた。また，導入と中心発問の場面でサインボードの色をワークシートに記録したことで，児童に心の変化を気付かせることができ，教師も児童の一人一人の変容を把握することができた。

Ⅲ　生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫（第３分科会）

１　分科会主題設定の理由

科学技術の急激な進展により，私たちは物質的に恵まれ，大変便利な生活を送っている。この生活の豊かさや便利さは，一方では自然環境の悪化や人と人とのかかわりの希薄さを生み出した。また，児童・生徒におけるいじめ，不登校，薬物汚染などが社会問題化し，生きることの喜びを見いだしにくい児童の姿も浮かび上がってきている。

しかし，児童はよりよく生きたい，人・自然・社会とのかかわりを豊かにもちたい，と願って精一杯生きている。このような現状だからこそ，児童が「生きることのすばらしさ」を正面から見つめることのできる働きかけをすることは，極めて重要であると考える。

第３分科会では「生きている喜びを実感し，意欲的に生きようとする」児童像に迫るためには，自然や自他の生命を大切にし，美しいものに感動する心を育てていくことが重要であると考えた。そのためには，道徳の時間において，①感動を呼び起こす資料の選択と提示，②心に深く問いかける発問，③他の教育活動との関連，④一人一人の気付きや思いを生かした個に応じた指導，を工夫することが必要であると考え，研究を進めることにした。

２　児童の実態調査

(1)　調査のねらい　　自然や生命や美しいものに対する児童の経験と意識を把握し，指導の工夫に役立てる。

(2)　調査対象児童　　調査対象児童は，都内６小学校の児童　３～６学年，合計９０３名

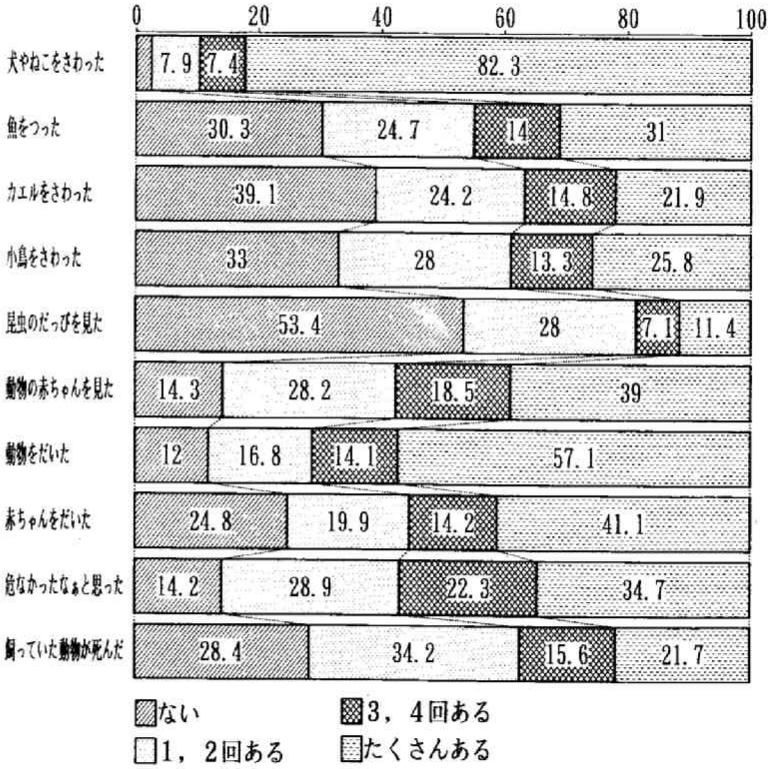
(3)　方　　法　　一部自由記述を含む選択肢法による質問紙調査を行った。内容は３～６学年共通とした。

(4)　結果と考察

ア　児童は今まで，どのような生きものと触れ合ってきたのだろうか。図１は，児童と生きものとの触れ合いの体験を調査したものである。全体として触れ合った児童は多い。また，自然の中の生きものと比べ人間が飼育している生きものとの触れ合いが多いことが分かった。また，身近な生きものの死を体験している児童も多い。

以上の結果から，身近な生きものとの触れ合いを題材に取り入れることで，道徳的価値の深まりが期待できると考えられる。

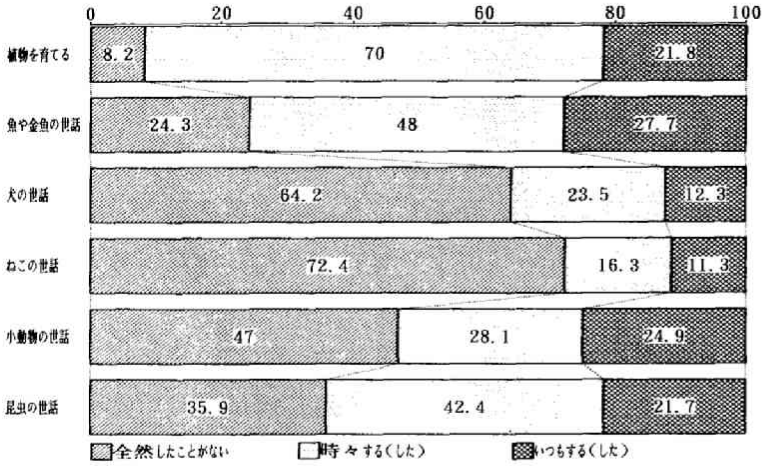
図１　身近な生きものや生命とのかかわり（％）



イ　図2の児童と生きものとの日常的なかかわりについては，世話を「時々する」が「いつもする」を上回っていた。このことから多くの児童が家の人に頼っていると考えられる。

このことから児童が主体的，継続的に深く生きものとかかわる機会をより多くつくっていくことが大切であると考える。

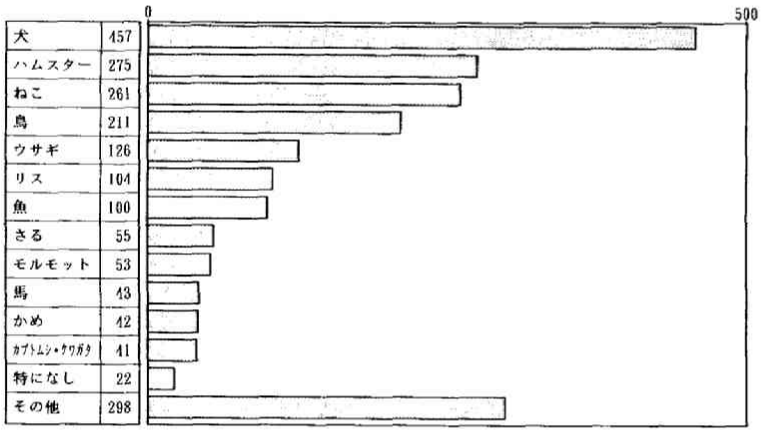
図2　生きものとの日常的なかかわり（%）



ウ　図3の育ててみたい生きものについて調査したところ，児童は，野山や川で見かける昆虫など自分でつかまえられるような生きものよりも身近な動物やテレビ・ペットショップで見かけるような，人工的に飼育・売買されている流行の小動物に強く興味・関心をもっているようである。

児童の親しみや関心を様々な生きものに広げる指導が必要である。

図3　育ててみたい生きもの（人）

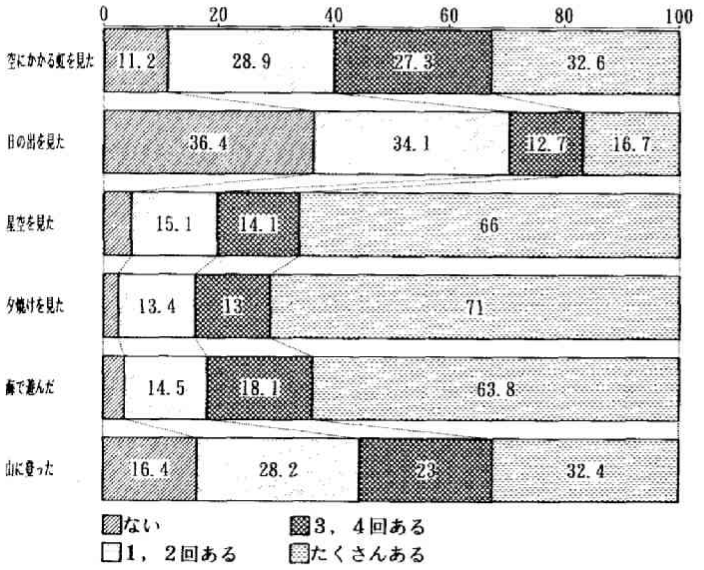


その他には，ネズミ　フェレット　アライグマ　プレーリードック　モモンガ　イグアナ　カマキリ　カニ　チョウ　キリギリス　コオロギなどが含まれる。

エ　図4の児童と自然や美しいものとの出会いについては，項目によって差がでたが，自然現象の現れる時間や場所が限定されたり，家庭や学校の取組み方の差があるためと考えられる。

自然のすばらしさ，偉大さなどを感じるには，実際に自然と触れ合う体験がなければ分かりにくい。自然との触れ合い体験を道徳の時間に生かして，さらに，自然や美しいものに関心を高めるような指導をしていく必要がある。

図4　自然や美しいものとのかかわり（%）



3　生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫

第3分科会では，生きることのすばらしさの自覚を深める指導として，次の4点を工夫し，研究仮説の検証を目指した。

① 感動を呼び起こす資料の選択と提示

② 児童の心に深く問いかける発問の工夫

③ 道徳の時間を要として，他の教育活動との関連を図る工夫

④ 一人一人の気付きや思いを生かした個に応じた指導

他の教育活動		・各教科等や日常生活の中で児童がねらいとする道徳的価値にかかわる気付きや思いを表現できるよう個に応じた表現方法を工夫する。（発言，作文，絵等）
資料選択の工夫		・ねらいとする価値に即し，発達段階に応じた分かりやすい内容の資料を選ぶ。 ・他の教育活動で児童に芽生えた気付きや思いなどが，資料の登場人物のもつものの見方，考え方，感じ方などを考える足場となるような資料を選ぶ。
道徳の時間	導入	・前時までに学習したことの中から，本時のねらいや学習に関連する事象を取り上げて，一人一人の児童の気付きや思いを想起できるようにする。 ・学習への興味を喚起し，ねらいとする価値についての方向付けを行う。
	展開	・資料の登場人物と共通性のあるものの見方・考え方・感じ方などをもとに考えを深めることができる発問を工夫する。 ・児童の多様な考え方や感じ方を引き出すことができる発問を工夫する。 ・資料の内容に浸って考えるための補助教材を工夫する。 （等身大のさし絵，パネルシアター，実物投影機，ビデオ，写真等） ・一人一人が登場人物になりきって，深く考えることができるようにする。 （書く活動，動作化，お面等） ・道徳的価値とのかかわりで自己を見つめ直すことができるよう，振り返りの視点を示すとともに，話し合い活動や書く活動も取り入れる。 ・児童が共通体験をもっている場合は，共通体験内での振り返りにとどまらず，各自が個々の体験を振り返れるように働きかける。
	終末	・ねらいとする道徳的価値について自己の考えや思いを広げることができるようにする。（説話，ビデオ，メッセージカード，手紙等）
他の教育活動		・各教科，特別活動等において児童が実践したことや学んだことを表現し合うことにより自己の成長を実感できる場を設ける。

4　実践事例（3年）

(1)　主題名　　自然とともに（3－(1)　自然愛・動植物愛護）

　　資料名　　「大きなくすのき」

(2)　他の教育活動との関連を図る指導計画

	関連	単　元　等	時数	教科等のねらい	道徳学習との関連	5月	6月
気付く	図工	おもしろ虫のすみか	6	虫のすみかになりそうな材料を集め，材料や場所の特長を生かした造形活動をすることができる。	気に入った落ち葉などを拾うことにより，自然を身近に感じ，親しむ。	□	
深める	道徳	自然とともに「大きなくすのき」	1	自然や動植物を大切にしようとする心情を育てる。			□
広げる	理科	モンシロチョウをそだてよう	6	昆虫を探したり育てたりして，成長の過程や体のつくりを調べることができる。	カイコに優しく接し，その成長や変化・死などを通して生命の大切さを感じる。		□

(3)　ねらい　　自然や動植物を大切にしようとする心情を育てる。

(4)　指導の実際（抜粋）

T　今日のお話にはくすのきが出てくるのですが，くすのきと聞いて思い出すことはありませんか。

C　図工の時間落ち葉を取りに行った。

C　公園に行ってくすのきを見つけた。

C　薬のようなにおいがした。

T　（黒板に大きなくすのきの一枚絵を掲示する。また，範読をしながら，実物投影機で校舎よりも大きなくすのきの写真を映す。）

> 他の教育活動で得た知識や経験を想起したり，また，掲示された一枚絵を見ることにより，資料とその道徳的価値を身近に感じることができた。

T　町のみんなにとって，このくすのきはどんな木でしょう。

C　みんなが昔登った木。

C　思い出がいっぱい詰まった木。

C　人気がある木

C　みんなの木。

T　市役所の人が来て，くすのきを切って道路をつくると言ったとき，町のみんなはどんな気持ちになったでしょう。

C　悲しいなあ。

C　せっかくみんなの思い出が詰まっている木なのに，切ったら切り株だけになっちゃうのかなあ。

C　もう登ったり，遠くを見たりすることもできなくなっちゃうのかなあ。

T　今の友達の意見も参考にして，町のみんなの気持ちをこの紙に書いてください。

ワークシートに書くことにより，一人一人が町の人たちの気持ちになって深く考えることができた。また，くすのきがなくなるという危機感を自分の言葉で表現することができた。

C　そんな勝手なことをするなんて。思い出が消えてなくなってしまう。

C　くすのきを切るなんて許せない。市役所の人にお願いしに行こう。

C　せっかくここまで育ってきたのに，ショックだな。

T　道路をつくることも必要。でも，くすのきも大切。そこでこうなりました（道路は曲げて，くすのきは残った絵を掲示）。くすのきを見上げて緑の天井がキラキラ光ったとき，ぼくはどんな気持ちになったでしょう。

C　これで鳥や生きものも今までどおり休める。

C　やっぱり反対してよかった。

C　セミ取りができてうれしい。

T　今まで，生きものを大切にしてよかったなと思うことはありますか。

C　朝顔の芽が出てきたとき，よかったなと思った。

C　大切に飼っているカメが，名前を呼んだら来てくれるようになった。

C　育てていたイチゴがなって，それを食べたときよかったなと思った。

今までの自分の経験を思い出し，生きものとのかかわりについて見つめ直すことができた。また，友達の発表に素直に共感し，今後も生きものを大切にしていこうという意欲がもてた。

(5)　考察

・資料提示で大きな一枚絵を提示したときや写真を出したとき，児童は素直に驚き，多くのつぶやきも出た。資料に強い興味をもつことができた。

・くすのきがなくなるという危機感を自分のこととしてとらえ，表現できていた。

・本時だけの指導にとどまらず，事前の他教科からもかかわりをもたせたので，クラス内での共通体験を土台に本時の価値について考えることができた。

・生きものを大切にしてきたという肯定的な意見を出し合うことができ，自分も大切にしようという意欲が高まった。

Ⅳ　自ら家族にかかわろうとする心を育てる指導の工夫（第４分科会）

１　分科会テーマ設定の理由

全体研究主題「よりよく生きる力を育てる道徳授業」の中の「よりよく生きる」について第４分科会では，「人間らしく（道徳的価値に照らして），更に高くありたいと願い，実践しようとする意志をもって生きる」こととらえた。「よりよく生きる」ためにはどういった力が必要なのだろうか。道徳教育の価値項目全てにかかわってくるが，中でも，「自分を振り返り，高めていこうとする力」，「他を思いやる心，感謝の気持ち」，「自他の生命を大切にする心」，「進んで奉仕しようとする気持ち」等が深くかかわっていると考える。

児童たちは，こういった力をどこで養うのか。地域・学校・家庭といった様々な場面で生活している児童が，最初に他とかかわり，生活のより所となるのは家庭である。同時に，道徳性の発達の基盤になるのが家庭である。しかし，現代においては，核家族化，少子化に伴い，親と子の心の触れ合いも，希薄になってきているのが現状である。また，生活が便利になり，欲しいものはいつでも手に入る状況の中で，親が物質的に援助してくれるのは当然であり，当たり前のように感じている児童も少なくない。また，家族に対する敬愛の念が薄れてきているように感じられる。

そこで，第４分科会では，「家族のよさに気付き，敬愛の念をもつ児童」・「家族を思いやり，進んでかかわろうとする児童」を育てたいと考え，本分科会テーマを「自ら家族にかかわろうとする心を育てる指導の工夫」と設定した。

２　児童の実態調査

(1)　調査のねらい　核家族化や少子化の傾向の実態と，児童がどのように家族にかかわっているかを把握し，資料の選択や指導の工夫に役立てる。

(2)　調査対象児童　調査対象児童は，都内８小学校の児童　４～６学年，合計１４５０名

(3)　方　　法　選択肢法及び記述法を用いた。内容は４～６年共通とした。

(4)　結果と考察

図１・図２で分かるように４人家族，５人家族が最も多い。また，６人を越える家族が２０％もあるのは以外だった。兄弟姉妹数では，２人が５０％を占めている。

また，１％ではあるが単親家庭があり，資料の選択や自分を振り返る場面での発問に留意する必要がある。

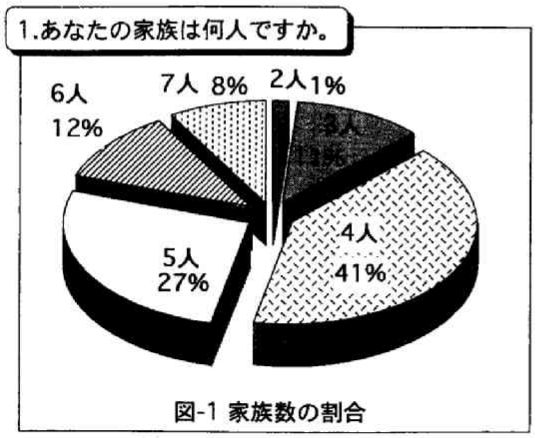


図-1 家族数の割合

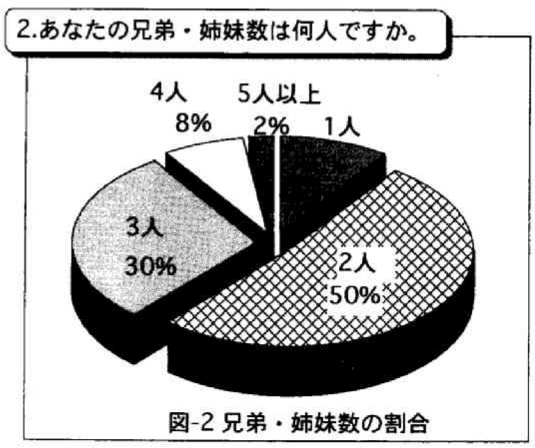


図-2 兄弟・姉妹数の割合

図３・図４では，朝食時に比べ，夕食時の方が，家族揃って食べる傾向にある。

また，学年が進むにつれて一人で食べる割合が増えている。これは，図５・図６で分かるように，学年が進むにつれて家族と話すことが減るのと同じ傾向である。

図７・図８では，学年が進むにつれ，家族より友人に話す傾向が増えている。

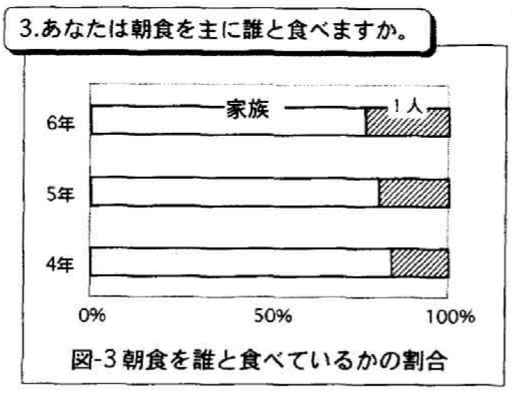


図-3 朝食を誰と食べているかの割合

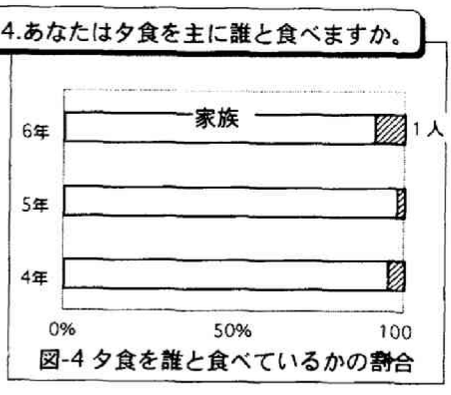


図-4 夕食を誰と食べているかの割合

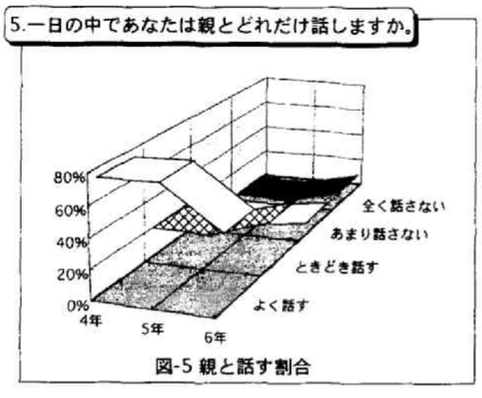


図-5 親と話す割合

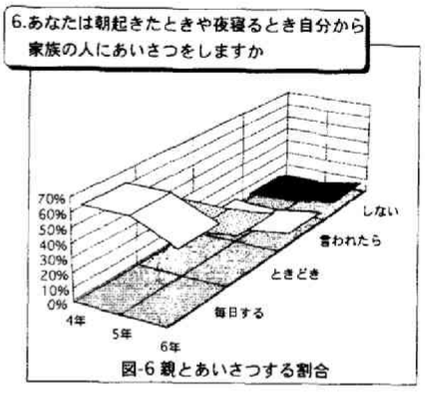


図-6 親とあいさつする割合

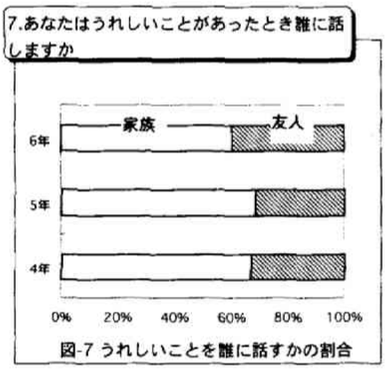


図-7 うれしいことを誰に話すかの割合

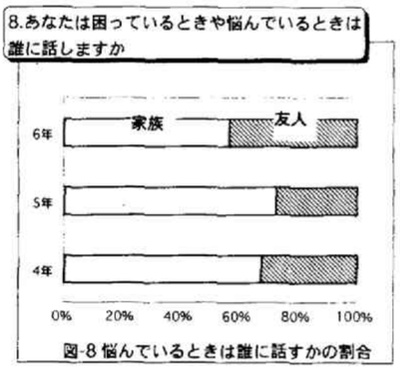


図-8 悩んでいるときは誰に話すかの割合

図９・図１０では，学年が進むにつれ，家族に対するマイナスイメージが増えてきている。学年が進むにつれて親との接触が減るのは発達段階として自然と思われる部分もあるが，同時に，家族とのかかわりが希薄になってきている様子も見える。また，家族に対する敬愛の念が薄れてきているとも考えられる。

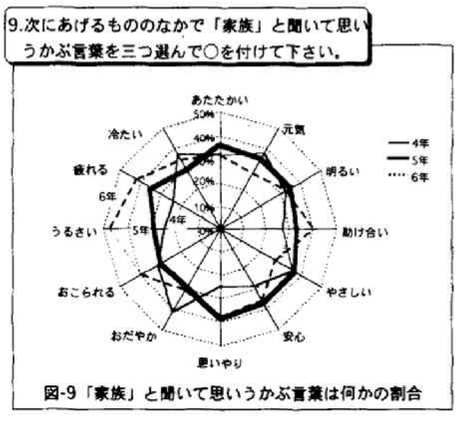


図-9「家族」と聞いて思いうかぶ言葉は何かの割合

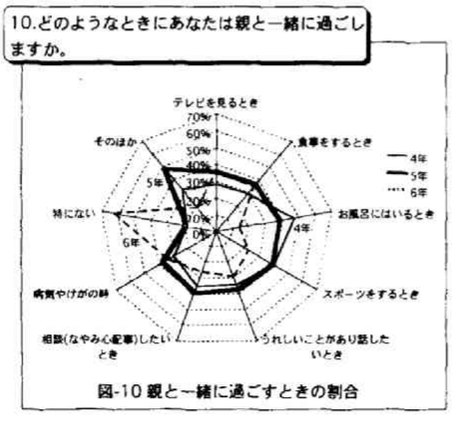


図-10 親と一緒に過ごすときの割合

以上の実態調査の結果，家族のかかわりの希薄さ，家族に対する敬愛の念の弱さは，予想していたほど顕著な傾向としては表れなかった。これは，この調査が極めて主観的な回答であったことが一因として考えられる。例えば，時間的には同じくらい親と話をしていても，それを「多い」と感じる児童と「まだまだ」と感じる児童とがいると思われる。結果に安心することなく，親と全く話さないと答えた児童，朝食も夕食も一人で食べるという児童がいることに問題意識をもち，家族愛について取り組んでいきたい。

3　自ら家族にかかわろうとする心を育てる指導の工夫

第４分科会では，自ら家族にかかわろうとする心を育てる指導の工夫として，以下の四つの視点から，研究仮説の検証を目指した。

1　事前指導・授業・事後指導の流れの中で道徳の授業を考える
2　児童が共感でき，家族のよさを想い起こせる資料の選択
3　家族をより深く見つめ直すためのワークシートの活用
4　これからの自分を考えることができる発問の工夫

事前指導の工夫	〈１の視点にかかわるもの〉 ・　日常の活動の中で，家族に関する話題を取り上げる。 ・　実態調査をして，資料の選択や発問の工夫などに生かす。
資料選択の工夫	〈２の視点にかかわるもの〉 ・　家族に対する実態調査をもとに，主題により迫りやすく共感を得られるものを選ぶ。 ・　今まで気付かなかった家族のよさを，改めて感じることができるものを選ぶ。 ・　ねらいや実態に合わせて資料の一部改作も考える。
道徳授業の工夫	〈３の視点にかかわるもの〉 ・　中心発問でワークシートを活用する。 ・　ねらいとする価値に対して，自分の考えをより確かなものにする。 ・　多様な考えや感じ方を引き出す。 ・　児童の心の変容を知る手がかりにする。 〈４の視点にかかわるもの〉 ・　自分自身の今までの家族とのかかわりを振り返る。 ・　これから家族とどうかかわっていきたいかを考える。
事後指導の工夫	〈１の視点にかかわるもの〉 ・　他教科との関連を図る。 　家庭科での「家族の生活と住居」，生活科での「自分自身や自分の生活について」，国語での作文，詩，家族を扱った文学教材の学習など。 ・　家庭との連携を図る。 　広報活動や相互交流の場を設ける。

4　実践事例（第４学年）

(1)　主題名　家族の一員として（４－(3)家族愛）　　資料名　「小さなお父さん」

(2)　ねらい　家族の一員として，家族のために自分から何かをしようとする心情を育てる。

(3)　展　開

	学習活動	主な発問	指導上の工夫と留意点
導入	1　登場人物を知る。	○　今日はね，『小さなお父さん』のお話です。	・　しゅう君とまり子ちゃんの絵を提示する。
展開	2　資料『小さなお父さん』を視聴し，しゅう君の気持ちを考える。	①　『小さなお父さん』を聞いて，どう思いましたか。	・　意欲的に学習できるように初発の感想を発問構成に生かす。
		②　２人だけで夜の留守番をする時しゅう君は，どんな気持ちで過ごしたのでしょうか。	・　妹のために一生懸命頑張ったしゅう君の気持ちに気付くため，ワークシートに書く。
	3　ワークシートに自分の考えを書く。	③　「小さなお父さんにまかせて」と電話を切った後，しゅう君はどうしようと思ったでしょうか。	・　家族の一員として留守番を頑張ろうと思っているしゅう君の気持ちに気付く。
	4　自分の生活を振り返って考える。	○　みなさんは，自分の家族に，これからどうしていきたいと思いますか。	・　自分自身が家族の一員として家族のために何ができるのかを考えようとする。
終末	5　教師の説話を聞く。	○　小学生の頃に出会ったお母さん思いのりっちゃんのお話です。	・　余韻を残しながら終わらせる。

(4)　指導の実際（抜粋）

T　資料をより共感的に理解できるように，内容の一部を改作し，切り抜き絵を活用しながら臨場感豊かに読み聞かせる。

> 絵や中心になる言葉を提示したり，文章をわかりやすくかえたりしたことで，児童に十分理解させることができて効果的であった。

T　①どう思いましたか。（児童が自発的に発表していく）

C　しゅう君は，妹思いでやさしくて，偉いなあ。

C　しゅう君は，本当のお父さんみたいだ。

ＯＨＰを活用して初発の感想を書き出し，それから発問を構成したことは，児童の主体的な学習を促す上で効果的であった。

T　しゅう君の気持ちを考えていきましょう。②妹と２人だけで夜の留守番をする時のしゅう君は，どんな気持ちですごしたのでしょうか。（ワークシート）

C　しっかり留守番するよって言ったんだから，がんばらなくっちゃ。でも，寂しいなあ。

C　こわいなあ。心細いなあ。早く帰ってきて，お母さん。

C　今日は，まり子のお父さんだ。頑張って，まり子を守るぞ。

ワークシートに自分の考えを書くことにより，一人一人が，しゅう君の留守番を頑張ろうとする気持ちに気付くために有効であった。さらに，両親に対する感謝の気持ちまで児童から引き出せれば，より深めることができたと考える。

T　③「小さなお父さんにまかせて」と電話を切った後，しゅう君はどうしようと思ったでしょうか。

C　まり子が困っていたら，話を聞いてあげよう。

C　まり子のために，晩ごはんの用意ができるかなあ。

T　みなさんは，自分の家族に，これからどうしていきたいと思いますか。

C　食器を洗ってあげたい。

C　花に水をあげたりして，玄関の掃除をしてあげたい。

C　いつもお母さんに世話をしてもらっているから，お母さんを手伝ってあげたい。

C　肩もみしてあげたい。

これからの自分を考えることに視点を当てたが，家族の一員として仕事をした経験が少ないため，今までの体験を振り返った上での発問の方が効果的であったのではないかと考える。

(5)　考察

・　児童一人一人は異なった家庭に所属している。それぞれの家族は特有の価値観をもち，生活の仕方も異なっている。児童が自らの家庭を大切にし，家庭内での自分の役割を考えられるようにしたい。また，いろいろな家庭があり，それらを認め合い，尊重し合うことができるように十分配慮していきたい。

・　主人公の心情をとらえていくときには，家族の一員であることを踏まえた発問構成を考えていく必要がある。

・　事後指導の記録ノートに，親への感謝の気持ちや親の大変さに気付いたという児童の感想が多く，保護者からも進んで手伝いをしようとする子が増えているという声を聞いている。児童たちからは，自分のできることを考えて実践しようとする姿が見受けられる。

◇　研究の成果と今後の課題

研究主題「よりよく生きる力を育てる道徳授業」を目指し，道徳の指導内容の四つの視点から分科会を構成し，それぞれに「目指す児童像」・「分科会テーマ」・「仮説」等を設け，具体的な授業実践を通して研究を進めてきた。その結果，次の点が明らかになった。

1　研究活動全体を通して

本来，人間は，よりよく生きようとする願いをもっている。児童もまた，一人一人が自らよさを求めて，何がよいかを探りながら生きようとしている。道徳教育においてその願いを実現するためには，教師が，肯定的，受容的，共感的に児童を理解し，愛情をもって接することが大切である。そうすることによって，児童は，自分の感じ方や考え方に自信をもち，勇気をもって伸び伸びと表現できるようになる。教師と児童との信頼関係ができてくると，児童同士も，互いの考えを認め合い，励まし合い，尊重し合うといった豊かな関係を築くことができるのである。さらに，その関係を深めるためには，道徳授業の改善を図ることが必要であり，多様な学習過程や学習活動，学習形態などを創意工夫し，児童一人一人が主体的に価値を追究できるようにしなければならない。そして，互いに尊重し合い，「かけがえのない」自他を尊重し合う心を育てることが重要である。

以上のことについて，根本的に考え，授業改善を試みることができたことは大変意義のあることであった。

2　各分科会の研究活動を通して

第１分科会では，「自分を見つめ，よさを伸ばしていこうとする児童」を目指し，研究を進めてきた。児童は他者とのかかわりの中で，自己を見つめ，よさを伸ばそうとすることが多く，授業でよりよく他者とかかわれる場面を工夫することの大切さが分かった。

第２分科会では，「互いのよさを見つけ，認め合い，高め合おうとする児童」を目指し，研究を進めてきた。このような児童を育てるためには，友達の思いや考えを受け入れ，認め合えることができる工夫をすることが，何より大切であることが分かった。

第３分科会では，「生きている喜びを実感し，意欲的に生きようとする児童」を目指し，自然や自他の生命を大切にし，美しいものに感動する心の育成について研究を進めてきた。その結果，資料の吟味とともに，道徳の時間を要として他の教育活動との関連を図り，一人一人の気付きや思いを生かした，個に応じた指導の工夫が大切であることが分かった。

第４分科会では，「家族のよさに気付き，敬愛の念をもつ児童・家族を思いやり，進んでかかわろうとする児童」を目指し，家族を見つめ直し，家族を大切にしようとする心の育成について研究を進めてきた。そり結果，家族のよさ，かけがえのなさに気付くとともに，これからの自分を考えることができる指導の工夫が大切であることが分かった。

今後の課題としては，一人一人の児童が自分のよさを生かし，主体的な学習ができるように，指導過程をはじめ，道徳の時間の指導の在り方を更に工夫・改善していく必要があると考える。

また，この研究の成果をもとにして，長く継続していくことが大切であり，更なる工夫・改善の方策を追究していきたい。